

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227  
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781  
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成22年5月(2010年) No.533

## 50周年記念映写会に際し思うこと

フィルム時代の記憶に残るドキュメンタリー作品の数々

1980年代までの朝日生命ホールで発表会を催したときの手元にあるプログラムを見ていますと、あの頃はドキュメンタリー作品の記憶に残る努力作品が多くあったなあと感慨深いものがあります。有村さんの「煙の晩歌」(1978)、「蝶々先生」(1980)、「翼よ永遠に」、前田さんの「鍛冶屋一代」(1983)、「この道一途」(1984)、上田吉巳さんの撮影会一位作品「船に生きる」(1979)、上総修一郎さんの「とんぼ仲間」(1985)など数々のドキュメンタリー作品が思い出されます。これらの作品は、DV化もしくはDVD化されて保存されているのでしょうか。

私の作品では何といたっても日本万国博スイス館の解体を描いた作品で、「ツリーの最後」(1971)があります。これは私が8ミリ映画を本格的に始め、初めて録音に挑戦、玄光社の全日本アマチュア映像コンクールに入賞、8ミリにのめりこんだ思い出の作品です。

この50周年記念に際し、第2記念行事の一つとして例会場でこれら往年の努力作品を集めて「名作映像祭」を催したらどうだろうか等と思っています。OMCアーカイブ鑑賞会は作品たちも喜んでくれるでしょう。また、この中から1~2本は本番の朝日生命ホールでの出番も考えております。フィルムの良質なDV化が課題ではありますが…。(合原記)

◆ビデオコンテストに出してみませんか：東京アマチュア映像祭ビデオコンテスト作品募集中、6月末〆切、くわしくは会長までお電話をどうぞ。

### 5月例会のお知らせ

5月例会は22日(第4土曜日)午後6時より、難波市民学習センターにて開催。皆様のお越しをお待ちしています。作品の方もどうぞ。

**OMC第50回記念映像フェスティバルは10月17日  
(日)地下鉄淀屋橋駅前 朝日生命ホールで開催します**

◆再予告：50周年記念映写会は6月映写作品までの出品作から原則として選定しますのでそのつもりでご準備して下さい。

## 4月例会レポート

今年の春は寒い日と暖かい日とが入り交じり着る物に気を使う毎日でした。例会日の24日はさすが気候もよく、第4土曜日が待ち遠しい会員さんが30名も集まりました。司会は安居氏の代役として合原氏、書記前田氏、映写係は江村、河合、増池の3氏。受付兼照明係は進藤、紙本の両氏の担当で会を進行しました。

◆出席者：有村、井上、石垣、岩井、上田、江村、岡本、上総、紙本、河合、河口、黒田、合原、進藤、関、玉井、対馬、西井、錦、華岡、藤原、前田、増池、宮井、宮崎、森口、森下、森田、山本、吉岡、(敬称略)の30人と作品本数14本でした。

◆上映作品 (今月の講評担当は前田茂夫)

### 1. 霧訪山登山 (DV)

有村 博さん 10分00秒

霧訪山はどこにあるのかと調べて見たら長野県塩尻と辰野の中間位の松本平の南に位置し、標高1305mの山だそうです。息子の敏男さんが1人で登山され、その姿を実に丹念に自分撮りされた登山記録作品です。頂上からは、周囲には御嶽山から、中央アルプス、南アルプス、高ボッチ山、美ヶ原、八ヶ岳連峰、北アルプスの穂高、白馬三山等など素晴らしい展望が広がります。これらの山の名称を現場でナレーション替わりに説明されます。頂上に着いた時に、やっと着いたというご自分の姿を自分撮りされていたらもっと良かったのにとの司会のコメントでした。山好きの人に見せたい作品です。

### 2. 北国脇往還戦国桜街道 (DV-WIDE)

森口吉正さん 10分30秒

以前に作られた作品に賤ヶ岳の風景を付け加えて再編集された最新作品です。ワイド映像ですが、カメラがハイビジョンカメラで撮ったからでしょうか、映像がきれいです。森口さんは紙本さんに次いで健脚でなかなか行きづらい史跡にも積極的に足を運ばれ、その作品を見せていただけます。

ご本人は近くまで車で行ってそこからの行動ですと謙遜されますが、なかなかまねの出来ない行動力です。いつもの独特の語り口にのっていい気分です。歴史探訪をしました。小谷城の浅井長政、賤ヶ岳の柴田勝家の敗者の悲しい物語は戦国の常とはいえ胸をうたれるものがあります。作品構成も賤ヶ岳が加わって厚みがまして大変良くなりました。

### 3. ふる里の夏まつり (DV-WIDE)

対馬 昭さん 10分00秒

対馬さんの故郷、大鰐町のねぶた祭りを撮られた作品。青森のねぶた、五所川原、弘前のねぶた祭りが三大ねぶた祭りとして有名ですが、青森各地には各町に規模は小さいがそれぞれねぶた祭りがあるそうです。ねぶたの製作工程にまで踏み込んで撮影されています。この作品を見て驚いたのは、作者が絵師として出身町のねぶたの絵をご自分で書かれたそうです。その絵がねぶたコンテストで大鰐町長賞を受賞されました。素晴らしい技巧に拍手です。主に三国志から題材をとって、下絵を書き、それを元に5m×5m位の大きさに拡大して書き写すそうです。染料系の絵の具(ポスタカラーは顔料系で不可)を使って色付けするとか。作品的には編集を知人に依頼してやってもらったので作者の意図が伝わっていないようで、連日の行動を昼夜、昼夜と時系列に並べているだけで一考すべきと司会者からのコメントです。大阪で作者が絵を描く情景から始まって、ふるさとでねぶたの製作過程を撮影し、祭当日ねぶたの練り行列を作者が満足そうに見送るというストーリーに出来れば、人間ドキュメンタリー作品に仕上がるのではと思いました。

### 4. 桜の咲くころキハ58が行く (HDV)

前田茂夫 9分10秒

昨年4月に余部近辺で撮ったキハ58だけの映像です。キハ58は1960年代に蒸気機関車牽引列車を置き換えスピードアップと居住性改善を図る無煙化を目的に大量製造され、日本全国で急行列車を中心に運用されました。朱色とベージュの塗色は、地方の風景に溶け込む秀逸なデザインであり、1990年代初頭まで長きにわたりロー

カル線の点景として欠かせない存在でもありました。会員の皆さんも過去に乗車したことがあるでしょうが、この車体色に記憶はあるのでしょうか？このような経緯から鉄道ファンの間では近年特に親しまれ、キハ58が運行されると多くのファンが集まってきます。しかし今では殆ど廃車になり現存するのは数両だけだそうです。鉄ちゃん向けの作品として作ったつもりでしたが、余部の春が主題で、新しい鉄橋に拘りすぎではないかとの司会者のコメントでした。

#### 5. 春一番 (HDV)

森田光春さん 5分43秒

タイトルからすると、立春の頃に吹く南よりの強風がテーマかと思いましたが、映像は早春に咲く綺麗な花の風景でした。2月末に撮影されたそうですが、4月末の今の方が寒いと話されました。美しい花の映像が続き心が癒やされました。短編作品でしたが、ラストに出てくるめじろのシーンは可愛らしいのですが少し長いのではとの司会からコメントがありました。

#### 6. かまくら撮影紀行 (HDV)

上総修一郎さん 10分50秒

秋田県の横手市のかまくらを撮影してこられました。人口10万人の歴史ある町ですが、昔から伝わる”かまくら”を盛り上げて観光客増加に繋げたいとの意図もあるようです。各家庭でかまくらを作り水神を祀る行事をおこなった本来のかまくら風習は、70年ほど前からすたれたようです。しかし珍しい雪国の民間風習を楽しく見せてもらいました。大雪にならなかったのは残念でした。

#### 7. 怒涛・御陣乗太鼓 (HDV)

河合源七郎さん 6分10秒

御陣乗太鼓は今も能登半島、石川県輪島市名舟町に古くから伝わる伝統芸能で、越後の上杉謙信が能登平定のため出陣し、天正5年には名舟村に押し寄せ、武器を持たない村人達は鎌や鍬で戦ったが、全く負け戦であった。しかし村の古老達はあきらめず如何にして、勝つかと考えたあげく、樹の皮で面をつくり、頭髮には海草を使い、太鼓を打ち鳴らして、再度上杉勢に挑戦し最後には勝利を得たという言葉が元で始

まったようです。荒波を背景に恐ろしい面を付けて太鼓を打つ姿は迫力があってよかったです。周囲には200名位の観光客が取り囲んでいたようです。大勢の観光客の中でもノイズがなくいい音声で録音されていて感心しました。

#### 8. 観音寺城 (HDV)

紙本 勝さん 8分50秒

近江八幡、能登川、東近江市に囲まれた三角形の中心辺り位置する山城(430m)で、国の名城100選に選定されています。城主が佐々木六角で別名佐々木城といわれるそうです。苔むした石垣、自然林のようになった城跡など戦国時代の常とはいえ敗者のはかなさを感じさせてくれます。作品は桑實寺から始まってだんだんと城跡に迫っていきます。作者お得意の歴史ものですが、安定した画面と語り口で古の世界に誘ってくれました。

#### 9. YOSAKOI 2009 (HDV)

江村一郎さん 7分50秒

毎年本場のよさこい、各地のよさこい祭りを作品にされていますが、毎回新趣向を打ち出すのに苦労されておられるようです。この作品ではイントロに高知の市電を紹介しパンニングで振ってよさこいのイベントに移ります。作品の途中でも市電のカットが挿入されていて高知の町の様子がよく判って興味をそそられました。この作品では、速い動きばかりでなく、ナレーション部分のあるゆったりとした動きを多く取り入れているのが目新しいと思いました。

#### 10. エドヒガンザクラに魅せられて (HDV)

進藤信男 20分00秒

川西市の新興住宅地の側を流れる猪名川沿いの崖のような土地に自然のエドヒガンザクラの群生があり、美しい花を咲かせていますが、これを守っていかうという人達が集まってNPOを作り、笹藪や灌木の刈り取り等、エドヒガンの成長を阻害する環境を整備し、サクラの生長を保全していきたいというボランティア活動をテーマにした超大作です。この作品は20分ですが最終的には1時間以上になるそうで、関係者にとって貴重な記録になりさぞ喜ばれることと思います。この作品はいつもの進藤作

品と違ってナレーションがなく参加者や招いた大学の先生の現地での会話や説明がナレ替りになって、ストーリーが進んでいきます。植物のこともよく判ったので退屈せずに引き込まれました。最終的に1時間以上の作品をどのように縮めて例会作品するか、さらにテーマを絞るのか、総花的に纏めるのか、いろいろ考える余地が多そうです。

#### 11. なばなの里花まつり (HDV)

西井 学さん 8分00秒

なばなの里は三重県・長良川河口付近にある大きな観光施設です。その中の花ひろばに絞って撮影してこられました。園内一面に広がる花の多さに圧倒されました。春の映像らしく花の美しさに目を奪われました。しかしこの広大な花園を維持管理するのは大変だろうと余計な心配をしました。球根の植え替えや、苗の植え付けなどオフシーズンの作業を撮って、こんな苦勞があつてこのように綺麗な花園が生まれるのだというストーリーが可能なら立派なドキュメンタリーになるのでは、と思いました。

#### 12. 花のみち (HDV)

宮井 健さん 8分20秒

阪急グループの創始者でアイデアの神様といわれた小林一三翁に焦点をあてて作られた作品です。翁の幼少から晩年までの写真や映像をたくさん挿入して、よく判るように構成されていました。数ある事業のなかでも特に宝塚歌劇団に注力されておられたようで、歌劇学校の生徒からも特に”お父さん”といわれて慕われていたとのエピソードも紹介されており、翁の人柄を印象づけていました。ナレーションが多いので、少しすくなくするか、それが出来ないのならば時間を10分位にして映像にゆとりを持たせたらいかがでしょう。

#### 13. 再訪余部 (HDV)

宮崎紀代子さん 7分24秒

4年前のOMC撮影から数えて、5回も余部詣でをされたそうです。宮崎さんとは数度ご一緒に行動したことがありますが、やっとというか余部作品を公表されました。イントロに新橋梁が予定よりも1ケ

月も早く開通するという新聞を見て、新聞をTOPにすえました。作者らしく余部への思いをナレーションで語っておられますが、再訪というタイトルからすれば、新橋梁が完成し、それを目前にして旧鉄橋を語るという構成すればより印象深い作品になるのではとの司会者のコメントがありましたが、全く同感で今秋にまた機会を作つてご一緒に訪問しませんか。加藤登紀子の「ばら色のハンカチ」の歌をBGMに使っていますが、いい効果が醸し出されていました。

#### 14. マレー鉄道の旅 (HDV)

山本正夢さん 10分40秒

タイ、マレーシアからシンガポールまでの2000キロメートルを列車で旅した記録です。機関車が日本製、客車が韓国製、など国際色があります。車窓から見た機関車がSLと見間違ふほどの白煙を出して轟進するのは驚きでした。3泊4日、乗車時間約40時間の長旅でした。乗り鉄にはたまらない列車旅だと思います。撮り鉄の筆者から見ると、山本さんは案外、乗り鉄さんかなと思いました。

先月例会作品 (講評は関世話役です)

#### 近江商人考 その3

豊郷の商人たち (HDV)

進藤信男さん 18分50秒

近江の豊郷は中山道沿いの宿場町。と言うよりむしろ京の都に近く、水運利用の琵琶湖がある立地条件から、傑出した商人たちを育んだ町。と言えるのかも知れません。天秤棒を担ぎ信用第一を旨とし全国を隈なく歩いたことで名字帯刀を許される豪商にまで大成したと言います。その基になったのは勤勉実直と故郷へ利益還元の哲学を代々伝えてきた事実でしょう。作者が主張したいこともそこにあると受け取りました。非常に熱心に各地を取材され作者の意気込みがひしひしと伝わってくる大作ですが、商人たちの活動範囲、それに携わる人々が多岐にわたり、地名と人名とで話が輻輳して、一度見ただけでは判り難い内容です。大阪に縁のある伊藤忠、丸紅などの名称もでてきましたから、そのどれかに重点を絞って話を組み立てたら、もっと理解し良い作品になったと思います。